

私 | は | こ | う | 考 | え | る

# 「たこつぼ型心筋症の成因に 症例から迫る」

プランナー

国立循環器病研究センター心臓血管内科部門 野々木 宏

たこつぼ型心筋症が初めて報告されたのは、1991年広島市民病院の佐藤らのもので、その後“Takotsubo Cardiomyopathy”として、日本語名がそのまま国際的に通用している数少ない症候群です。今年には20周年ですが、いまだに成因が明らかにされていないのが現状です。症例の積み重ねにより明らかにされてきたことや、当初欧米では見られないとされていたのが海外からも症例報告が多く報告され、脳-心臓連関という新たな成因追求への取り組みも提唱されています。“逆たこつぼ”などの亜型の報告や、“stress induced cardiomyopathy”, “broken heart syndrome”, “neurocardiogenic stunning”, “neurogenic stress cardiomyopathy”, “neurogenic stunned myocardium”など疾患名の変更提唱も海外からなされていることから、我が国からの名称の統一化も期待されます。

1例ごとの症例の吟味から多数例に共通な病態を探り出すことは非常に重要であり、今回執筆いただいた5論文は、臨床例を1例1例丁寧に検討したベッドサイドでの軌跡といえるものと思います。これらのアプローチから、今後成因につながる臨床研究が生み出されることを期待しています。